

授業科目名	看護理論 Nursing Theories	大学名	獨協医科大学
科目区分	専門科目	開講時期	後期（10月7日～12月5日）
学部・学科等	看護学部・看護学科	曜日	看護教務課まで問い合わせください
必修・選択区分	必修	時限（時間）	看護教務課まで問い合わせください
標準対象年次	第1学年	授業形態	講義・演習
単位数	1単位	授業会場	看護学部棟講義室
担当教員名	板倉 朋世		
電話番号（代表者名）	0282-86-1111（内線5101）	e-mail アドレス	kangogakubu@dokkyomed.ac.jp
オフィスアワー	水曜日 12:30～13:00、17:00～18:00 質問への対応は毎回の授業終了後に対応する。		
授業の概要	<p>【授業の概要】 看護の見方・考え方の基盤として看護理論について学び、代表的な理論家の理論内容を看護実践へ活用する方法について学修する。</p> <p>【授業の目的】 看護の見方・考え方の基盤となる看護理論を学び、看護実践へ活用する方法について理解する。</p> <p>【到達目標】 1.看護理論を学ぶ意義について説明する。 2.看護理論の種類(適用範囲):大理論、中理論、小理論を説明する。 3.看護理論の歴史的な変遷過程と、各時代の代表的な理論家を列挙し、理論の概要を説明する。 4.看護理論の実践への活用について、代表的な理論を用いて発表・討論する。</p> <p>【授業計画】 第1週 1.ガイダンス 2.理論とは、看護理論とは 3.看護理論を学ぶ意義 1)なぜ看護理論が必要になったのか 2)看護理論発達の経緯 4.看護理論の必要性 1)看護の対象となる人間理解と看護理論の関係性 2)理論家の考える人間・健康・社会(環境)・看護の考え方 3)身近な事例から看護理論の必要性、看護の役割を考える 事前学習：教科書 p.2-18 まで読み、理論の構成要素・種類についてまとめる。 第2週 1.看護理論の歴史的変遷 2.看護の理論的業績の概観 3.最新の研究結果からの知見 事前学習：教科書 p.258-274 を、看護の歴史の中で理論家の輩出時期にどのような特徴があるか考えながら読む。 第3週 代表的な看護理論家の理論と看護への活用① 1.ナイチンゲールの理論 事前学習：教科書 p.20-29 を精読し、ナイチンゲールが捉える「病気とは」「看護とは」についてまとめる。 事後学習：第4回～7回目の理論家について、担当グループで調べて発表できるようにする。 第4週 代表的な看護理論家の理論と看護への活用② 2.ヘンダーソンの理論 事前学習：教科書 p.30-40 を精読し、「看護師の独自の機能」「人間の基本的欲求」についてまとめる。担当グループは発表資料をLMS コラボノートに提出する。 事後学習：発表を聞き、疑問に思ったこと、考えたことをワークシートに記載して提出する。 第5週 代表的な看護理論家の理論と看護への活用③ 3.トラベルビーの理論 事前学習：p.145-156 を精読してくる。事前配布資料「聞いてください、看護婦さん」を読み、医療における態度や言葉の重要性について考えてくる。担当グループは発表資料をLMS コラボノートに提出する。 事後学習：発表を聞き、疑問に思ったこと、考えたことを翌日までにLMS フォーラムに入力する。担当グループは次回の講義前日までに回答を入力する。</p>		

授業の概要

第6週 代表的な看護理論家の理論と看護への活用④ 4.ロイの理論

事前学習：p.183-191を精読する。担当グループは発表資料をLMS コラボノートに提出する。

事後学習：発表を聞き、疑問に思ったこと、考えたことを翌日までにLMS フォーラムに入力する。担当グループは次回の講義前日までに回答を入力する。

第7週 代表的な看護理論家の理論と看護への活用⑤ 5.ベナーの理論

事前課題：教科書 p.245-256を「看護師の臨床技能の習得段階」に着目して読んでくる。

事後学習：発表を聞き、疑問に思ったこと、考えたことを翌日までにLMS フォーラムに入力する。担当グループは次回の講義前日までに回答を入力する。担当グループは発表資料をLMS コラボノートに提出する。

事後課題：「授業で取上げた理論家以外で興味のある理論家の理論」についてまとめる。詳細は授業時間内に提示する。

第8週 代表的な中範囲理論の実践への活用 1.ストレス-コーピング理論 2.自己効力感 まとめ

事前学習：配布した「ストレス-コーピング理論」「自己効力感」に関する資料を精読し、提示された事例に適用して理論を理解する。

事後課題：最終課題レポート：①「授業で取上げた理論家以外で興味のある理論家の理論について」A4用紙1枚にまとめる。②「看護理論を学ぶ意義および臨床に活用する意義について」A4用紙1枚以内にまとめる。提出日:12月23日(金)13時(時間厳守) 提出先:LMS レポート提出

【成績評価と基準】

評価は、授業参加度・リフレクションの内容(20%)、グループワークでの発言・資料作成の役割分担の状況(20%)、最終課題レポート「授業で取上げた理論家以外で興味のある理論家の理論についてまとめる」(30%)「看護理論を学ぶ意義および臨床に活用する意義について」(30%)で評価する。授業時間中に、提出指示があった課題レポートの評価を加える場合もある。本科目では成績再評価は実施しない。

【履修上の注意】

- 1.事前学習を行い、授業に臨む。
- 2.事前学習でまとめた内容を基に、授業内でディスカッションを行い理解を深める。
- 3.グループワークでは、グループで学習計画を立案し主体的な学習を行う。
- 4.課題レポートは提出期限を厳守しLMSに提出する。
- 5.レポート類は提出時間を過ぎたものは受け取らないので注意すること。

【教科書】

看護理論 看護理論20の理解と実践への応用 筒井真優美編集 南江堂(最新版)

【参考書・参考資料】

看護実践に活かす中範囲理論 野川道子編著 メヂカルフレンド社

その他、適宜指示する。

【備考】

- ・講義資料は事前にLMSに掲載し、学生の学修状況を確認する。
- ・演習時は、与えられた課題に基づいて小グループでディスカッションを行い、各々の意見を発表し合う。
- ・講義内でLMS等を用いて学生の理解度を確認し、補足説明をする。
- ・LMSに挙げられた質問について、講義・LMSなどで回答・解説する。
- ・成績評価の結果は、「授業評価の回答および成績評価の講評」に記載しフィードバックする。